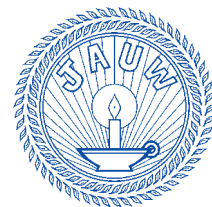


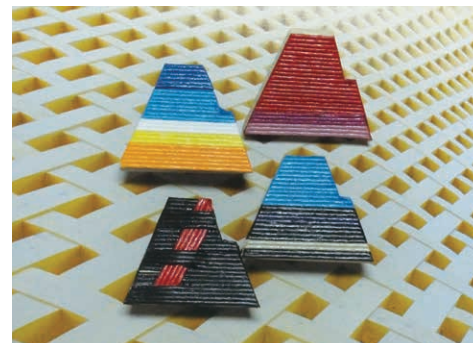
すべての女性が輝く明日のために

JAUW会報



一般社団法人
大学女性協会

第264号
2018年7月



(左上) 第7回定時会員総会 (右上) ブローチ作り体験 (下) 世界文化遺産富士山を背景に

特集 第7回定時会員総会

会長挨拶・実行委員長報告……………	2	NGO/CSW62報告……………	8
2018年理事・監事紹介		GWI 総会と100周年記念会予告 ……	9
上川大臣祝辞・議事抄録……………	3	国際奨学生決定・文化事業委員会より	
分科会報告……………	4	災害を語る会——被災支部からの報告……	10~11
新委員長から・募金報告・研修旅行……………	5	2018年国内奨学生募集案内……………	12
守田科学研究奨励賞贈呈式……………	6~7	全国シンポジウムご案内・催事のおしらせ	
20周年記念祝賀会・研究概要		新入会員・理事会から	

2018年総会特集 富士の裾野のように広やかに



会長 鷺見八重子

薫風かおる5月13日（日）、静岡にて第7回定時会員総会が開催されました。札幌から長崎まで21支部から正会員107名が参加（出席率14%）でした。

今年は役員改選期にあたり、14名の理事と2名の監事が選任され、鷺見が引き続き会長を務めることになりました。ご支援・ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。

前日の午後、恒例の支部長会がもたれ、活発な意見交換を通して大きな支部も小さな支部も会員の高齢化、若い世代への働きかけの難しさなど共通の課題を抱えながらも、それぞれの地域性を生かして多彩な事業を展開されている様子がよくわかり、とても励まされました。

懇親会には上川陽子法務大臣がご臨席のうえ、国会の所信表明演説にまさる内容豊かなスピーチを賜り、大いに勇気づけられ感動しました。数少ない女性大臣として益々のご活躍を心から願わずにはられません。

大臣のお話とも通底する昨秋の全国セミナー「女性の自立とは一真のリーダーシップを発揮するために」は、「女性の自立」をめぐる課題の集大成でしたが、分科会ごとに纏められた提言から浮かびあがった現実、あらゆる分野の男女格差、ジェンダー差別、まだ根強い古い慣習や価値観でした。男女ともに意識の向上が求められています。あらためて教育の大切さが認識され、今年度のテーマ「教育・ジェンダー・共生」へと繋がった幸いです。

さわやかに晴れた翌日、大きく広がる富士の裾野を走るバスの右に左に美しい世界遺産を見上げながら、JAUWの未来を想い描きました。

皆さまの知恵と経験を頼りに、創立から72年目のページを彩りあざやかに染め上げたいと願っております。



笑顔と寛容なお心に支えられて

静岡支部 全国総会実行委員長 尾上契子

2018年度全国総会・第7回定時会員総会が盛大かつ無事に終了できましたこと、会場設営を担当した静岡支部会員一同、心より安堵し喜んでおります。まさに周到な準備をしていただいた本部の皆さまをはじめ、全国から参加された支部長、会員の皆さま、裏方で一生懸命働いた静岡支部会員とホテル関係者等による総力結集の賜物と思います。「笑顔・寛容・協力・協調」の空気が、主会場、懇親会場、バザー会場と随所に行き渡り、心地良い場と時間を醸成していました。担当支部としての役目をなんとか遂行できたのも関係各位のお支えのお陰と深く御礼申し上げます。

懇親会では、公務ご多忙の中、駆けつけていただいた上川陽子法務大臣より、大学女性協会の使命に沿った広くて深いお話を伺い、有意義かつ光栄な時を過ごすことができました。食事中に大道芸人「わっしょいゆ〜た」が一輪車で会場を沸かせました。

また13日の昼食時には、「静岡児童合唱団」による美しい歌声と真剣な表情、楽しい演出に心癒されました。歴史小説家の植松三十里氏による公開講演では、森有礼夫人の常が国際化の走りの時代に、当時の女性観に縛られて、いかに生きづらかったかが忍ばれました。

研修旅行は好天に恵まれ、富士山も適時に晴れやかな姿を見せ、「紙バンド」会社でのお話やブローチ作り体験・白糸の滝・静岡県富士山世界遺産センター見学など感動的でした。ありがとうございました。また、お目にかかれる日を楽しみにしております。

2018年 JAUW 理事・監事

前列左より：

加納孝代 / 副会長（企画担当）、鷺見八重子 / 会長
牧島悠美子 / 副会長（総務担当、事務局統括）、縄田真紀子 / 監事

後列左より：

伴紀子 / 支部担当理事（以下、担当理事略）、端本和子 / 広報・国際支援
森川淳子 / 支部、城倉純子 / 調査・研究事業・生涯学習、中山正子 / 監事
窪田憲子 / 奨学事業、市川知恵子 / 総務（業務執行）、鈴木千鶴子 / CIR・国際支援・国際ネットワーク、江原孔江 / 会計、田辺光子 / 財務（業務執行）、中村礼子 / 会計（業務執行）、藤谷文子 / 事業



上川陽子法務大臣祝辞（要約）

本日は全国各地からようこそ静岡にお越し下さいました。静岡支部会員の一人として心より歓迎申し上げます。

まず大学女性協会におかれましては、事業の柱に奨学制度を設け、人を育てることに貫いて取り組んでおられますことに心より敬意と感謝を表します。

私は現在、安倍政権の女性閣僚として、「202030」には到底届かない分、野田聖子さんと2人で3割以上の力を発揮しようと日々活動しています。

我が国のGGI（ジェンダーギャップ指数：女性の活躍度を表す国際的指標）ランキングは年々後退し、IPU（列国議会同盟）が発表する女性議員比率も常に低い状況にあります。

世界においては、ここ10年、女性の視点があらゆる政策に反映される状況が顕著になってきました。他方、我が国においては、平成27年8月、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）が成立し、さらに、政治分野における男女共同参画の推進に関する法律案が今国会でようやく成立する見込みとなりました（注：平成30年5月16日に全会一致で成立）。まさに大学女性協会はじめ男女共同参画を推進する各団体の活動の成果であり、今後実質的な効果を上げるためには、さらに継続した取組みが重要であると考えています。

現在、私は、第100代目の法務大臣として「法の支配」を基本理念に掲げ、アジア諸国を中心に、例えば、途上国にプロの法曹実務家を派遣し、民商法分野を中心とする法制度の整備、これを適正に運用するための人材の育成等を含め、相手国ニーズに寄り添い型の法制度整備支援を行うなどしています。

日本の法文化やこれを支える人材を日本のソフトパワーと位置づけ、相手国への支援を通じて、海外で日本企業が活躍するためのビジネス環境を整備し、国家として相互に成長していくことを目指し、アジア、そして世界に法の支配を均てんさせるための取組みを行っています。この一年、ベトナムを皮切りにミャンマー、インドネシア、シンガポール、タイ、マレーシアを訪問し、本年5月には、イギリス、オーストリアに出張するなど精力的に『司法外交』を展開しています。

また、2020年刑事司法・犯罪防止の分野における世界最大規模の会議である国連犯罪防止刑事司法会議（コンGRESS）が京都で開催されることになりました。前回の大臣当時、カタールで開かれたコンGRESSにおいて、日本に誘致するビデオメッセージを送りました。こうした国際会議や東京オリンピック・パラリンピック競技大会を通し、海外の皆様にも我が国の法遵守の文化の浸透度を体感し、安全・安心な国日本を世界に広くアピールし、2015年に国連が採択した持続可能な開発目標（SDGs）に謳われた「誰一人取り残さない」社会の実現のために貢献したいと考えています。

私は、議員になる前から大学女性協会静岡支部に所属し、人権問題や多文化共生社会の実現に強い関心を持ち、日本人外国人の区別なく一人ひとりが社会で活躍できるようにしたいという思いで草の根活動を続けて参りました。

先輩方が積み上げてこられた活動の軌跡を大切に次の世代に繋いでいけるよう、明日の総会の成功を心から祈念申し上げます。



上川陽子法務大臣を中心に

第7回定時会員総会議事抄録

日時：2018年5月13日9：30～12：05

場所：中島屋グランドホテル3階オリーブ（静岡市）

1. 総会成立確認：菊池総務理事より2018年5月13日、午前9時30分現在の出席者数106名、議決権行使書提出者数370名、出席者合計476名を報告。正会員773名の過半数以上の出席により、総会の成立を確認。

2. 開会の辞：逝去会員8名の冥福を祈って、黙祷。次いで鷺見会長より開会の挨拶があった。

3. 議長選出：定款に基づき鷺見八重子会長が議長となる。

4. 書記選出：菊池摩耶子・市川知恵子

5. 議事：

第1号議案 貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認に関する件：中村会計理事より議案書に基づき貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記について説明がなされた。続いて縄田監事より業務及び会計監査の報告があった後、議長が同議案の承認を諮り、異議なく承認可決された。

第2号議案 理事14名選任、並びに会長候補者選出の件：議案書に基づき鈴木理事より提案理由及び役員選考委員会岩村委員長からの理事候補者推薦についての説明の後、議長が同議案を議場に諮ったところ、挙手賛成89名、議決権行使書の賛成票370名、計459名がこれを承認し選任可決された。尚、被選任者はその席上で就任を承諾した。定款に基づき会長候補者として鷺見八重子理事が承認された。

第3号議案 監事2名の選任：牧島副会長より議案書に基づき提案がされた後、議長が同議案を議場に諮ったところ挙手賛成107名、議決権行使書の賛成票370名、計477名がこれを承認し選任可決された。

報告事項：①2017年度事業報告②公益目的支出計画実施報告及び監査報告③2018年度事業計画及び予算につき各担当理事が説明、阿部監事から監査報告があった。

6. JAUIW 公開シンポジウムについて

日時：2018年10月27日（土）

会場：（一社）日本女子大学教育文化振興桜楓会桜楓2号館

7. 会員拡大の件：縄田会員拡大委員会委員長より4年間における会員拡大ワークショップの報告があった。今後も活動を継続して会員拡大を目指す。

8. 「70周年記念募金について」：創立70周年記念募金は2019年3月31日までご協力をお願いする。

9. その他：①次回総会は2019年5月21日、22日に京都で開催する。②山下理事よりGWIの「VGIF」ヴァージニア・ギルダースリープ国際基金への協力の説明があった。

以上をもって第7回定時会員総会は閉会した。

総会午後の部 公開講演会と分科会

総会午後の部では、まず鷺見会長から臨時理事会と各担当理事の簡単な紹介があった。その後、歴史時代小説家植松三十里氏による公開講演会「辛夷開花」が行なわれた。

全国総会分科会では、本部・支部協働の事業、奨学金事業関係、国際ネットワーク事業と国際協力、広報事業+会員拡大、収益事業関係、生涯学習委員会と6つの分科会でセミナーの提言を参照し、各事業の今後について意見を交換し相互理解を深めた。

活発な意見交換 — 全国総会分科会報告

第1分科会：本部・支部協働の事業

調査・研究委員長から、女性エンパワーメント・教育・社会福祉の3委員会がそれぞれに実施してきた調査を統一し、何のための調査かを考え、政策提言するためのエビデンスづくりをしていきたいとの導入を受けて、関心事項を述べ合いました。家庭科教育とジェンダーについての調査を継続・ジェンダーギャップ指数を上げるための何かをし提言に結び付ける・次世代に繋げるためにSDGsが目指すものの確認を・ジェンダーは幼児教育から・18歳成人の動きに呼応する教育システムが必要、等々が出ました。また、事業1である調査・研究委員会は、「支部と本部が一体となって進める」との法人趣旨を具現化する重要な場であることを改めて再確認、認識し合いました。

第2分科会：奨学金事業関係

JAUWの奨学事業について議論する第2分科会には、奨学事業担当委員長4名を含む12名が参加した。各委員長から現状、問題点などについての報告の後、参加者間で活発な意見交換が行われた。

参加者の殆どが奨学事業に何らかの形で関与した経験をお持ちであったにも拘らず、個々の奨学事業についての理解が十分ではないことが判明した。多くの時間を割いて国際奨学生について議論した。JAUWの奨学事業として最も多額の奨学金を支出しているが、その成果については会員から疑問が寄せられている。委員長からの現状の報告の後、外国人対象だけではなく、日本人の枠もあるべきとの声がしばしば会員から出ているとの意見もだされ、参加者全員でその可能性などを話し合った。

第3分科会：国際ネットワーク事業と国際協力

全国各地の支部会員多数を交えての活発な話し合いを通して、様々な忌憚のない意見が挙げられた。それらを集約し結論として次の課題が明確化した。つまり、国際ネットワーク委員会が担当する事業は海外と関わるものではあるが、あくまでも大学女性協会の活動であることを抜きには成り立たない。従って、先ず協会内部に情報を浸透させる必要がある。且つ、国内のメディアを含めた協会外部へ広めること、併せて、GWIや国連CSW参加などの主な事業について当事者達で掘り下げ深める継続・発展性のある活動を構築していく必要がある。それら全てを効果的に実施するためには構造化に基づく方略の案出が急務である。

第4分科会：広報事業 + 会員拡大

広報：「支部だより」は興味深く有意義。支部共通の課題へのアンケート調査もとの意見。JAUWの紹介時に会報を配布し、入会していただいたとの報告。どんどん活用したい。HP：「もっと見やすい、見たいと思うHPを！」との希望とセキュリティ管理への要望があり、委員長より「開設5年目に当り、リニューアルを検討中」と報告があった。会員：入退会、会員の支部移動など会員情報の確認は、本部（会員委員会）と支部間で密に連絡すること。退会理由の分析、HPからの入会希望などについても意見交換。会員拡大：札幌支部長より「他団体との協働を積極的に」と。同意見が多くあった。仙台・福岡支部長より会員拡大ワークショップの報告とお誘いがあり、会員拡大を願った。

第5分科会：収益事業関係

年間100～200万円収益を目指す。それは厳しい状態。親睦委員会は、親睦旅行は収益は上がらない。新春のつどいは80人以上なら収益が上がるが、ここ2～3年は収益があがらない。もっと参加人数が増えるよう努力する。次回の新春のつどいは1月12日（土）。収益事業委員会は、全国支部よりのお土産・寄贈品により収益を図る。岩波映画・丸大ハムの商品通信販売は収益源になっている。HPから楽天に入る「楽天アフィリエイト」はこれから期待できる。文化事業委員会は出演者がチケットをたくさん引き受けていただく方だと収益が上がる。これからは出演者がチケットをたくさん引き受けていただける方を探す。ただしコンサートは半年から1年前に動き出すので大変である。

第6分科会：生涯学習委員会（新規事業）

前新規事業委員長から過去2年間の新規事業の内容と経過説明があり、その後生涯学習委員長より、受身でなく会員として社会へ発信・提供できる生涯学習のあり方について話された。それを受け、主として人材バンクの活用と発信の方法、項目の再検討について話し合いが持たれた。地方支部からは講師派遣を依頼した場合、登録者は社会貢献という視点から旅費のみで来て頂けたら会員外にもPRしやすいという提案があった。学校教育におけるジェンダー教育の重要性に鑑み、そのための資料づくりまで話が進んだが、これには特定の人たちだけでなく、会員が自身のできる範囲、できる部分で協力する必要性も確認された。また会議中、人材バンクへ3名の新規登録者があった。



新委員会「調査・研究委員会」のめざすところ



調査・研究委員長 **勝又幸子**[※]
 公益活動事業（第1事業）である調査研究政策提言事業を実施する委員会です。今の時代、政策立案は事実に基づいて行われることが当然とされていますが、JAUWではこれまでも様々な調査活動を通じて貴重な事実を収集してきました。その実績を基礎としながらも、新委員会は提言すべき政策をゴールとし、その根拠を示すエビデンスを収集する活動をします。セミナーのテーマとも整合性をもたせ、国の政策の一步前を行き政策提言 NGO JAUW を応援します。[※]静岡支部、(一社)ヒューネットアカデミー代表

新たなネットワークづくりをめざして



文化交流委員長 **建部静代**
 国際文化交流の活性化や情報ネットワークの進展等により海外からの留学生数の増大や関心が高いなか、留学生が求める日本文化への興味・関心も多様化してきました。さらに、地方文化の多様性にも留学生にとっては大きな魅力となっています。本年は日中平和友好条約締結40周年であることをふまえ、中国および諸外国からの留学生との交流を促進します。また、支部の皆様と連携し、その土地の素材を生かした地域貢献型の文化交流会を推進したいと思えます。歌舞伎等の伝統芸能、食、建築、フォーラムなどの仕組み作りの年度でもあります。

10年後の JAUW の活動を視野にいたれた取り組みを



生涯学習委員長 **嶋田君枝**
 JAUW のすべての会員が、JAUW で自己実現でき、生きがいを見出せる活動ができることを目指して、受け取る側（受講生としての立場）だけではなく、発信する側（インストラクター、スーパーバイザーとしての立場）の双方向の観点から『生涯学習』にアプローチしていく予定です。
 JAUW の会員をリソースとして捉え、女性の観点と会員の多様性（社会での活躍分野、年代、専攻分野別科学的分析力、地域性…）をフルに活かし、10年後に今より深く広く社会に貢献できる事業展開を生涯学習というツールから模索していきます。皆様のご協力を心からお願い致します。

創立70周年記念募金委員会報告とお願い

委員長 **牧島悠美子**

本募金に関し多くの会員の皆様からご協力をいただき心より感謝申し上げます。
 前回以降2018年2月1日から5月31日までの寄付者数は56名、寄付金額は59万7,000円、募集開始の2016年11月からの計は寄付者数延べ388名、寄付総額569万9,500円となりました。
 2019年3月末までに1,000万円の募金目標を達するためには、なお多くのご協力をお願いしたく、振替用紙を同封させていただきますので今後の活動へのご支援をよろしくお願ひいたします。この間の募金名簿を本頁下部に掲載し、報告に代えさせていただきます。

研修旅行「世界遺産の街 富士・富士宮を訪ねる旅」

静岡支部研修旅行担当 **勝又幸子**

前日の悪天候から研修当日の朝は雨もあがり、快晴のうちに1日を楽しく過ごすことができました。大型バス1台が満席になるほどの多数の参加を得て雄大な富士山の景色を車窓から追いつながらのツアーになりました。参加者の皆さまのご協力に感謝いたします。

2017年6月から準備を始め、県内の合計6社の観光バス会社から企画提案と費用の見積をとり検討を重ねました。8年前の静岡総会では県西部産業であるお茶畑などの見学を盛り込んだ研修だったことから、今回は県東部を中心とした企画を立てました。地元のネットワークを発揮して、製紙業が盛んな富士の土地柄から、植田産業のPapiesミュージアムにて、紙テープの体験型見学が盛り込まれました。先方は48名という多数の人数を一度に受け入れるのは初めて、ということでしたが、社長さん自ら、紙テープ産業の歴史について、お話をいただきました。

昼食は地産地消の牧場レストランでのバイキング。新鮮

な牛乳をつかったソフトクリームが暑い天候のなか参加者の食後を潤しました。最後には富士浅間大社近くに2017年12月に開館したばかりの「静岡県富士山世界遺産センター」を見学しました。写真はセンターの富士山展望台から景色をたのしむ参加者の様子を撮影したものです。

静岡支部としては地元の強みを大いに生かしたツアー内容にできたのではないかと考えています。お土産として参加者に配布したのは富士の茶園が栽培製造した和紅茶と富士の農事法人が製造販売している茶羊羹です。帰路、公務で参加できなかった山下いづみ支部長が新富士駅まで見送りにきてくださり来年、京都総会での再会を約束しました。



(一社) 大学女性協会創立70周年記念募金寄付者ご芳名

(敬称略・支部別、五十音順)

2018.2.1~5.31

(仙台支部) 青木洋子、氏家薫、北川万喜子 (新潟支部) 北村美江、田中和子、山田和子 (群馬支部) 植原映子、岡崎朋美 (長野支部) 徳田節子、三田コト (東京支部) 岩田玲子、植松ちどり、江尻美穂子、後藤祥子、島美喜子、白井典子、辻英子、西田節子、平田恭子、三木妙子、村木晴子、望月浪江、山下泰子 (神奈川支

部) 池上賀英子、板倉敬子、鷺見八重子、田中正子、房野桂 (静岡支部) 齋藤佳代、鈴木温子、鍋倉伸子 (愛知支部) 加藤いつみ、近藤明子、伴紀子 (金沢支部) 升村登美子 (京都支部) 稲葉カヨ、勝目さや子、亀田和代、久代佐智子、中川慶子、中村泰子、西芳子 (奈良支部) 奥村晶子、津田直子、梁瀬度子 (神戸支部) 東條喜代子 (岡山支部) 大岸一代、近藤みち子 (広島支部) 山手万知子、吉村幸子 (大分支部) 和田英子 (福岡支部) 石蔵幸代、桑原洋子、矢田和子 (長崎支部) 鈴木千鶴子、辻佳子

第20回大学女性協会 守田科学研究奨励賞贈呈式 及び20周年記念祝賀会



喜びの受賞者を囲んで

科学研究奨励委員会委員長 今野 美智子

6月3日(日)、多数の会員および関係者の参加により、第20回守田科学研究奨励賞の贈呈式と受賞講演、続いて、20回を迎えた守田科学研究奨励賞の過去15名の受賞者に全国各地より参集いただき、20周年記念祝賀会がアルカディア市ヶ谷会館で盛大に開催された。

第20回守田科学研究奨励賞の受賞者は、病態代謝分野の堀美香博士とソフトマター物理分野の柳澤実穂博士である。

堀美香博士は北海道大学薬学部総合薬学科を卒業後、同大学院医療薬学専攻修士課程・博士課程に進学し、博士(薬学)を2008年に取得した。2011年9月には国立循環器病研究センター研究所病態代謝部研究員となり現在病態代謝部動脈硬化研究室室長である。家族性高コレステロール血症の病因候補遺伝子の同定とそれを基にした治療ならびに予防のための創薬を目指し、これまでに原因遺伝子の一つであることが知られるPCSK9について存在する2つの分子型PCSK9蛋白を定量するELISA法を開発すると共に、発症におけるPCSK9遺伝子のV41変異が病態修飾に於いて重要な役割を担うことも明らかにしている。それらの成果は複数の新聞でも報道されるなど、一般にも大きな注目を集めている。

柳澤実穂博士はお茶の水女子大学理学部物理学科を卒業後、同大学大学院に進学し、2009年博士後期課程を早期修了され博士(理学)を取得されている。2014年に東京農工大学大学院研究院の特任准教授となり、今日に至っている。この間、リポソームを中心にソフトマターを対象とした研究を一貫して展開している。複数種の脂質からなるリポソームにおいて、相分離と相関して非平衡構造として出現する多様な膜変形について、実験的及び理論的な取り組みを行い、この現象を解明した。この成果は、物理学分野でのトップジャーナルであるPhysical Review Lettersなど

に掲載され、100報以上の引用がなされ、第6回物理学会若手奨励賞を受賞している。応用面での第一の成果としては、様々な形態のマイクロゲルの創成に成功している。また、リポソーム膜へ、DNAを用いて裏打ち構造を付与し、これを新規ドラッグデリバリーシステム創成へ活用することを目指した研究を展開している。

20周年記念祝賀会

20周年記念祝賀会は、鷺見八重子会長の挨拶で、お茶の水女子大学を卒業され神奈川県で教鞭をとられた故守田純子氏から女性科学者育成のためにと遺贈された資金をもとに本賞が設けられたことが紹介された。続いて日本学術会議副会長 渡辺美代子氏のご祝辞を述べられた。女性の大学教員の割合が、20年かけて1.5倍となったが、極めて遅いこと、他方、学術会議の会員の女性の割合が3%から現在33%と大幅に伸びたことが報告され、守田賞の受賞者が、若い女性研究者の力となるよう願われた。ついで本賞の審査委員を最初の10年間なさったお茶の水女子大学学長 室伏さみ子先生のご祝辞を述べられた。初代の委員長の島美喜子先生の乾杯があり、和やかな雰囲気にも包まれた。本賞受賞者一同を代表して原田慶恵先生が故守田純子氏の実弟である林英明殿への感謝の言葉を述べられ、感謝状の盾を贈呈された。第1回から20回までの17名の受賞者が一言ずつ挨拶された一受賞の後、多くの講演依頼を受け多忙となったが、積極的に参加したこと、受賞時のエピソード、工学系の学会では、女性を対象とした賞を設けたこと、この賞のおかげで逆境において精神的に助けられたこと等一、話は多岐に渡り、本賞が女性研究者の活躍の原動力となったと実感した。また第1回からご家族、ご親族、お世話になった先生、友達が招かれ、家族的雰囲気でも進められてきたことが紹介され、終始なごやかな雰囲気でも親交を深めた。



第1回から20回までの17名の受賞者



渡辺美代子
学術会議副会長

生活習慣病を根底とした 動脈硬化、発がんの分子機序の解明

国立循環器病研究センター研究所
病態代謝部動脈硬化研究室長
堀 美香



本邦の4大死因は、がん（約29%）、心疾患、肺炎、脳血管疾患であり、動脈硬化性疾患は、心・脳血管疾患合わせて約24%を占める。動脈硬化・発がんの根底には、生活習慣病が存在すると考えられる。私は、ヒト膵臓の脂肪浸潤（脂肪膵）は加齢、糖尿病、肥満がリスク因子として知られているが、それらとは独立して、脂肪膵が膵がんリスクとなりうることを証明した（Hori et al. *Clinical Transl Gastroenterol*, 2014）。また、高脂肪食を負荷した膵管化学発がんモデル動物において、血清脂質の上昇ならびに膵臓・がん組織に脂肪細胞が顕著に浸潤し、通常食群に比較し早期かつ高頻度でがんが発生することを明らかにした（Hori et al. *Pancreas*, 2011）。

動脈硬化については、高LDL-コレステロール（LDL-C）血症がリスクの一つであることが知られている。遺伝的に高LDL-C血症を呈する家族性高コレステロール血症（FH）は、高LDL-C血症と早発性冠動脈疾患を特徴とする常染色体優性遺伝病であるが、その原因遺伝子として、本邦ではLDLR受容体（LDLR）とPCSK9遺伝子が報告されている。PCSK9はLDLRを分解する因子であり、血中では成熟型・切断型の2つの分子型で存在するが、切断型PCSK9は、LDLR分解活性を持たず、その存在意義は不明である。私は、PCSK9蛋白質の2つの分子型を分けて測定可能なEnzyme-linked Immunosorbent Assay法を開発し、重症FHに対するLDL低下治療である、LDLアフェレシス治療において両分子型が除去されることを報告した（Hori et al. *J Clin Endocrinol Metab*, 2015）。また、PCSK9遺伝子V4I



変異は、単独変異ではFHの病態への寄与は小さいが、LDLR遺伝子変異と重なることにより、LDL-C値の上昇ならびに冠動脈疾患の発症が30%上昇することを報告し（Ohta, Hori et al. *J Clinical Lipidol*, 2016）、遺伝子解析から冠動脈疾患重症度を判定することが可能となることを示した。

細胞モデルによる 相転移現象の解明とマイクロ材料創成

東京農工大学・大学院工学研究院
特任准教授
柳澤 実穂



生物は、様々なソフト材料（ソフトマター）によって構成されており、例えば、生物の最小単位である細胞は、主にリン脂質からなる膜で覆われている。人工的に再現されたこのリン脂質膜小胞はリポソームと呼ばれ、細胞を試験管内で理解するための細胞膜モデルや、薬物等を体内輸送するためのカプセルとして応用されてきている。私は、このリポソームを中心とするソフトマターを研究対象とし、その基礎研究と応用展開を一貫して展開してきた。

複数種類の脂質からなるリポソームでは、生体の細胞同様に特定のリン脂質が集合分離する（相分離）。この相分離したリポソームに対して、分離と膜変形との結合パターンを解析し、様々な非平衡構造を実験的に見出すと共に、平均場理論を用いることでこの現象を解明した（2008 *Phys. Rev. Lett.*）。また、細胞質のような多量の生体高分子溶液を内包したリポソームに対しても、内部粘度を軸にその膜変形機構を解明してきている（2017 *Soft Matter*）。

また、この細胞膜がゲル状の細胞骨格に支持されていることをモデル化し、高分子ゲルを内包した細胞モデルを用いて新規マイクロ材料の創成を目指してきている。例えば、細胞モデルサイズ・高分子間の相分離・膜との濡れ性を制御することで、多種多様なマイクロゲルの形状と硬さの制御が可能であることを見出した（PNAS 2014, *ACS Cent. Sci.* 2018）。さらに、DNAナノテクノロジーを用いて作成した人工的な細胞骨格によって、壊れやすいリポソームの耐久性を高めることに成功した（PNAS 2017）。これらの成果は、今後の医薬品や化粧品、食品への応用が期待され、雑誌、新聞、テレビ番組などで紹介されるなど、社会においても大きな反響を呼んだ。今後は、これらマイクロ材料のより自在な力学制御と、更なる機能化を目指したい。



NGO/CSW62を振り返る



国連設立一年半後に発足の女性の地位委員会（CSW）、ならびに1972年以来CSWに並走しその効果を最大限に高め続けている NGO フォーラムは、本年もニューヨークの国連本部とその周辺で、3月11日～23日に開催された。JAUWでは、昨夏より若手支援者選考、事前勉強会、国際女性デー行事でテーマを身近なものにする企画などの準備を重ね、若手支援者、櫻井綾乃氏、植田奈穂美氏を含む5名が参加した。参加者による報告会を5月6日に開催し、テーマ「農漁山村の女性と女兒のエンパワメント」について石塚浩美会員の経済学視点からの発表や、青木怜子元会長によるコメント・助言など、それぞれの貴重な体験を共有できた。

概要と成果、そして合意結論 —言葉から振り返り課題を展望—

前国際ネットワーク委員長 鈴木千鶴子

報告会では始めに、CSW62が女性に特化した会議として類を見ない規模であったことを、数値で確認した。150を超える国々から4300人、600に及ぶ NGO が集まり、2週間に亘り300の公式および政府との合同会議ならびに400もの NGO 主催の会合が開かれた。吹雪にも見舞われた中で熱い議論が交わされた。

次いで、優先テーマが国連の SDGs（持続可能な開発目標）に呼応し時宜に適うものであったことを、標語「誰一人取り残さない」の観点から確認した。取り残されている可能性が最も高い農漁山村の女性と女兒に焦点を当てずして、この実現は望めない。さらに、その地域の“ジェンダー平等”の達成を図る時、“貧困削減”“食糧の安全保障”“持続可能な農業と栄養供給”“人間らしい就労”“質の高い教育”および“気候変動”といった SDGs の他の目標と関連づけた包括的な取組みが求められる。且つ、それら他の目標領域にジェンダーの主流化を導入することで、SDGs 全体の達成に可能性が開けよう。

数多くの会合の中で筆者にとって印象深かったのは、ユネスコとのサイドイベント「ジャーナリストを守る健全な民主主義」。腐敗した政治家を追及していた中、昨年10月に暗殺されたマルタの女性記者ダフネ・ガリチアの息子マシュー氏が他の同様の経験を証言する発表者と登壇し、人権擁護と報道の自由および民主主義の深い関係を説いた。パラレルイベントでは、GWI（旧 IFUW）が主催する「ネット活用によるルワンダとオーストラリアの郡部女性の教育」。ルワンダの復興再生が予想以上に進んでいることを知り、ネットの威力に驚くと共に使い方の大切さを痛感した。

NGO CSW/NY の閉会行事として、世界5地域を代表するパネリストによる総括がなされ、CSW 参加を通じ、各国、世界で政策決定を担う要人に直接会える意義と、話しかけ訴える必要性が強調された。また、米国入国に対する経済的・政治的制約が“誰一人取り残



さない”方針に反しており、言語の壁と共に参加排除の要因となっていると批判された。最後に、参加者にとって実り多いCSW62ではあったが、各人の帰国後の活躍により社会変化が実現されることで、はじめて真の成果がもたらされると激励された。

本年は、同テーマのCSW57で得られなかった合意に漕ぎ着け、あらゆる暴力の追放を含む、経済資源・教育・医療保障・適正労働・食の安全と社会サービスへのアクセスに関する7項目の勧告が発表された。筆者はその合意結論文書（英文10,929語）を言語データとし、他の一般的英語および過去5年間の合意結論文書を参照データとして統計処理・分析を行い、当文書の特徴を表す主要な単語を抽出した。それらでCSW62の姿と意味を綴り結語としたい。「CSW は国際的女性課題解決に向け各国政府へ提言する。本年のそれは、男性をはじめ全ての人々の参加で因習を打破し、女性と女兒に持てる資源やサービスの利用を可能にする政策立案と具体的実施を推し進めよ、である。」

CSW62に参加して感じた若者の活躍の重要性

植田奈穂美

CSW62は、私にとって初めてのCSWへの参加となりました。現地に行き、各国の若者が政府とNGOが共催するサイドイベントや、CSW61からの新しい取り組みであるユースダイアログでリーダーシップを見せている姿を目の当たりにしました。その姿を見て、私たち若者が発信力を持ち、同時にその活動に一人でも多くの方に賛同して頂き協力して頂く環境を作っていくことが、これからの社会の持続的な発展に必要な不可欠ではないかと考えるようになりました。同時に今回CSW62に参加させて頂く機会を頂戴し、世界各国の若者の問題意識やそれに対する活動を体感することが出来たことで、それを私たち日本の若者の活動に活かしていく必要があると感じました。CSWの場で日本の若者がより積極的に発言の機会を頂くようになることは、国連の場での日本の存在感の向上に必ず寄与すると思います。日本でも今、多くの若者がCSWの掲げる多くの課題に関心を寄せ、様々な活動をしています。それをCSWという国際社会の場に繋げ、日本の若者がよりその場で主体的に活躍する機会を得ることが出来るよう、私も今後出来ることをしていけたらと思っています。



JAUWと国連活動

JAUW元会長・IFUW元会長 **青木 怜子**

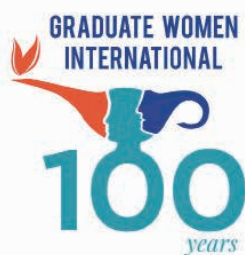
JAUWは世界の動きに強い関心を持ち、意欲的に行動することを活動方針の1つとしています。理由は、国際大学女性連盟（GWI/IFUW）が女性の教育促進のため、設立当初（1919年）から世界の女性との連帯を求めてきたからです。第二に、女性の地位向上には国連のイニシアティブが何よりも効果的で、国連を通し世界と繋がる必要があるからです。

GWIはその国連と繋がるパイプとして、国連経社理に諮問的地位を持っています。それにより、ユネスコ・CSW・ユニセフ等と密接に関連する活動を行っています。

JAUWはこのつながりに加え、独自の国連へのアクセスも持っています。1つは、「国際婦人年連絡会」を通じ、CSW・NGOフォーラムに日本から参加者を送れること、さらにJAUWも会員である「国連NGO国内女性委員会」に、毎年、日本政府代表として国連総会に出席できる人材を推薦できることです。すでに鷺見会長や中村道子元会長など多くのJAUW会員が日本の民間女性を代表し国連総会に出席しています。

JAUWとしては、今後もこれら代表や参加者を国連に送り、女性の主張を国連に反映させ、ひいては世界を動かす力になればと思っています。国連総会の日本政府代表団に推薦する候補者の人選は、他団体からの推薦もあって、厳選されてのことですが、語学は勿論、専門領域での経験と知見が問われます。それに値する人材はJAUWには沢山あります。是非ともご関心をお寄せ頂き、若き会員のモチベーションになればよいと念じています。

（国連NGO国内女性委員会委員長）



GWI100周年を
スイス・ジュネーブで！
GWI 第33回総会および
創立100周年記念大会
「教育を通じた平和」（仮訳）
期間：2019年7月25日～28日

秋のコンサートのお知らせ 文化事業委員会

日本・スウェーデン外交関係樹立 150周年記念コンサート

スウェーデンからピアノ、歌、ギターの音楽家が来日
両国の友好を祝して日本のピアニストと共演します
共催：日瑞音楽交流基金、JAUW、アルページュ
後援：スウェーデン大使館

日時：2018年11月5日（月）19：00開演（18：30開場）
会場：豊洲シビックホール 会費：4,000円（全席自由）
☆出演者 クリストッフエル・ヘストバック（ピアノ）
ヘレーナ・アリエステーン（ソプラノ）
ダニエル・エドワルドソン（ギター） 古川 泰子（ピアノ）
☆ご期待下さい。詳細はJAUW 事務所まで

2018年度国際奨学生が決まりました

国際奨学委員長 **岩村道子**



DZINUN HAZLINIさん（31歳）は、マレーシア工科大学で博士研究員として透過膜による排水処理の研究をしています。9月1日～2019年2月28日まで名古屋工業大学の市川洋教授のもとで、「光触媒を用いた排水浄化処理」について研究をいたします。



RATHORE KM SURABHIさん（26歳）はインドの防衛技術研究大学の博士課程在学中で専門は生物流体力学です。10月1日～2019年3月30日まで東北大学材料科学高等研究所の水藤寛教授のもとで、「流体力学的手法による血流の動態解析とその心血管疾患との関連」について研究をおこないます。

初夏の午後のコンサート—伊能美智子のOTO—

文化事業委員長 **佐々木澄子**

5月末の気持ちの良い午後に、JAUW主催のコンサートがけやきホールで催された。鷺見会長が「名だたる音楽家の演奏が楽しみです。」と挨拶し、作曲家・ピアニストの伊能美智子のために集まったアーティスト達による素晴らしいコンサートが始まった。



まず、ピアニスト友田恭子による「七夕変奏曲」の演奏。1979年国際大学婦人連盟太平洋地域セミナーが行われたときに、伊能美智子が作曲したデリケートで美しい楽曲が会場に流れた。ご自身がMCも務め、柔らかい声で、作曲の万葉集の和歌、平成の短歌・俳句、また作詞作曲した「山と海と人生と」「ハト胸の将軍」を紹介し、ピアノの伴奏もとフルに活動。村田由紀子、羽山弘子、高田正人ら二期会で大活躍の錚々たる歌い手が、胸に浸み込む声のソプラノ、テノールで歌い上げた。

第2部は「小倉百人一首より恋の歌」。男歌人の歌を村田、羽山、高田が元歌を読み上げた後、情感豊かに歌った。女歌人の歌は、東京芸術大教授でコロラトゥーラソプラノの第一人者菅英三子の「天使の歌声」と称賛される声が聴衆の心を魅了、音楽の素晴らしさを堪能できる会だった。



災害を語る会

体験から次世代に伝えたいことー被災支部からの報告

3月3日（土）の午後、「Jカフェ」事業の一つとして本部事務所において、「災害を語る会」を実施しました。「Jカフェ」は会員の持てる力を会員対象に発揮していただく「機会」を提供し、共生する場です。きっかけは「人材バンク」登録者の中に、自分でできるカテゴリとして「家庭での災害への備え」を書いた方がおられたこと。

JAUW 支部は全国各地に点在し、それぞれの支部地域に多くの自然災害が発生し、多くの会員が被災者、支援者それぞれの立場で被災体験をしています。「災害を語る会」では、被災体験を男女共同参画の視点から「他人事」ではなく「自分事」として捉えていただく一助になればという思いで企画しました。

旧新規事業委員長 松本由美子

阪神淡路大震災を体験して 神戸支部 松村和子

私の住んでいた地区は周りで100人余が犠牲になられたということもあり、開発地区（県・国）土地区画整理（市）に指定されました。21年前に家が潰れて原っぱになったのでこのあたりの家は築21年です。

あの日、突然、ぐらぐら揺れてすぐに外に出ると、電信柱が倒れ電線がダラーと切れて垂れ下がり、前の家は1階が潰れて、2階から人が外へ飛び降りていました。周りは埃っぽい臭い、臭いとガスの臭いが充満し、道路には家々が倒れてきて通れなくなっていました。救急車の音が鳴り響き、家の中は台所に割れた瀬戸物の山、勝手に家具が動いて、机の脚が折れ、壁が一部落ちました。たかが1分弱なのに周りの景色が一変してしまっただけです。

ニテコ池（「火垂るの墓」の場所）は決壊して水がなくなり、道が池に落ちて進めなくなりました。

越木岩体育館の2階は避難者で溢れ、1階は畳に乗せられて運びこまれたご遺体の安置所になっていました。

そのまま寝かされているご遺体がいたましくて、ショックでした。思わず手を合わせました。

周辺に火事はなかったのがせめてもの救いでした。

電気は電信柱の倒れていない場所は当日開通しました。ガスは私の住んでいた地区は1ヶ月で復旧しましたが、他地区は2~3ヶ月かかりました。水は近くにあった阪神水道局に20ℓのポリ容器に汲みに行きました。お風呂の残り湯はトイレに使用しました。

あの日に見た光景は記憶の淵にいつもあります。決して忘れることはないでしょう。

知識上の震災と実際の震災は違った 東京支部 平田恭子

7年前、仙台市中心部で多少の不自由な日々を送ったに過ぎない自分は被災者とは言えませんが、悲惨は日常の隣にあり、あの時、現地とそれ以外は別世界であったという体験をしました。日頃から腰より高い家具を使わず写真立てのガラスも抜くなど出来る限りの備えをし、震災当日もバスタブに水を張り、それは確かに役には立ちました。

しかし3分でおさまると習っていた揺れは6~7分も続きました。バスタブの水はトイレ用水となり自宅で避難できましたが、水が出ないうちは、水の目途が全ての基準でした。備えやサバイバル方法はどこの自治体でもアドバイスがありますし、旧新規事業委員会で災害に関する講演会の全文をまとめて下さるようなので、詳細はご覧下さい。

震災時、現地では何が起きたのか、全くわかりませんでした。映像や情報を一切、見る方法がなかったからです。ラジオの情報は東京の視点、つまり、原発、放射能、計画停電が主でした。誰しも自身に降りかかることが優先なわけで、被災した現地と東京はじめそれ以外の地は全く違う世界でした。手探りの生活をするしかない中、絆と共に、醜いものもたくさん見ました。挫けまいとする気持ちと、失望、神というものがいるならば、こんなことをすることへの怒りは、好意から祈って下さる言葉への不快さにさえなりました。何をどう語っても決して伝わることのない、やりきれない気持ち、そしてそれは、本当の被災者の方々こそが、私を含めた人間に持っているのだと思います。まずは、そこから理解をはじめることが大切だと思います。

非常時対策は平常時の自分を見つめ直すこと 櫻井彩乃

大学在学中に女の子の声を基にしたオリジナルの防災ブックとキットを作り、同世代の女性を対象に各地の大学などで災害からジェンダーやリプロダクティブ・ヘルス/ライツについて考えるワークショップを開催していました。若い女性として「非常時」に何が必要か、どう自分を守るかを考えます。それが平常時、つまり今の自分を見つめ直すことにつながると考えています。

災害と無縁だった私が活動を始めたきっかけは、2015年に仙台市で開催された国連世界防災会議に参加したことです。会議で被災地の女の子の話を聞いて衝撃を受けました。「避難所で知らない人に体を触られた」「友達がレイプされた」という性暴力の話もあれば、「原発事故の影響で将来子どもを産めないから結婚できない」と話す子も。結婚＝出産ではないのに。「女性が性暴力やDVを受けるのは当たり前前だと思っていた」という声も聞きました。



ワークショップ後、「毎月生理がこない」「彼氏からDVを受けている」などを打ち明けてくれます。災害という究極の想定をすることで、普段口にはできない体や心の悩みを表に出しやすくなるのだと思います。

災害を風化させないというのは、その教訓を生かすこと。それは被災地でのボランティアに限りません。被災していない私が声をあげることは何度もためらいました。しかし、「同じことを繰り返してはいけない」「傷つく女の子をこれ以上増やしたくない」と思い、活動を続けてきました。

女の子にはたくさんの可能性があり、自分の未来は自分で決められるとこれからも伝え続けたい。「災害」という切り口を通じて、今を生きる女の子に自信と生きる力をつけてほしいと願っています。

常総市鬼怒川水害の体験から意思決定の場に女性の参画を 茨城支部 長谷川 典子

2015年9月10日、鬼怒川堤防が決壊し常総市の3分の1が浸水した。死者2名、負傷者40名以上、全半壊5000件の被害が発生した。後に、なぜ広範囲の被害だったか問題になったが、「ここまでは水が来ないだろう」「二階に避難すれば大丈夫」等々、危機感を持たなかったことに一因があった。行政からの情報も曖昧だった。避難所がわからない人も多かった。ハザードマップの存在も知らなかった。多くの人々が災害の意識の薄いことが浮き彫りになった。また、役所は、正確な情報をいち早く住民に伝え、住民一人一人を思いやった避難を指示しなければならなかったと思う。

私の自宅は高台だったため、水害発生と同時に近所の人たちが続々と集って来て避難所となった。避難所を提供して、子供や高齢者・障がい者・外国人の居場所、男女の性差の配慮、在宅避難者への連絡等々、多くの問題があると感じた。また避難所には女性のリーダーを配置すべきである。

水害から1年後、私たちは、女性の視点で検証し語り継ぐためにアンケートと聞き取り調査を行い、記録集を発刊した。男女の性差、避難所の在り方、母親の貴重な体験等、女性ならではの問題や提言が提起された。記録からは、地域力を高めた防災対策には女性の考えや行動力が不可欠だということが見えてきた。意思決定の場に生活を知ってい

る女性が入ることが望ましい。

災害は、いつ、どこで起きるか分からない。自助、公助、共助の防災を常日頃から心がけ災害に対して意識を高くし十分な知識を持ち、行動できるようにしていかなければならないと思う。そのためには、生活を知った女性が、意思決定に参加できることが重要と考える。

昔から「鬼怒川が切れたら命がなくなると思え」という言い伝えがあったが、今回の災害を経験した者として次世代に伝えていきたい。

「くまもと未来への復興人材育成事業」を教育の現場から 熊本支部 岡本美和

私は、県立学校の家庭学科で取り組んだ「くまもと未来への復興人材育成事業」についてお話をさせていただきました。熊本地震からの復旧には10年以上かかると見込まれ、熊本県が掲げる「創造的復興」に寄与できる人材育成がねらいですが、実施にあたって「女の子の支援」の視点、若年女性はとても弱い立場にあるが、保護するだけでなく、意見を持ってそれを発言できる力をつけられるような支援が必要である、ということの一つの柱としました。

内容は、南阿蘇方面の被災地の見学と、西原村仮設住宅での手芸を通じた交流活動、事後学習として「熊本のために自分ができること」を考えるワークショップです。ワークショップでは東日本大震災当時家庭学科の高校生であった方を講師に迎え、震災当時の経験談や、その後いろいろな人と関わりながらボランティア活動をされていることなどを話してもらいました。「好きなもの・得意なものを生かして、熊本地震の課題の解決方法を考えよう」のテーマに、家庭科の専門の学びから生徒の得意なものを引き出すには時間がかかりました。現地での交流活動で喜ばれたことやこれまでの学習の一つ一つに価値があることを伝え、ようやく自分にできることがたくさんあると気づき、自信につながっていきました。女の子自身が自分の存在の意義を自覚することは重要で、しかし難しいことです。

災害を語る会では、他の支部の皆様からの被災体験のお話がとても胸に響きました。また、私のしていることなどとても小さいと思ったのですが、教育の現場で目の前の生徒たちに力をつけることが私の役割なのだ確認することができ、聞いて下さった皆様に感謝いたしております。

2018年度 全国公開シンポジウムのご案内

テーマ「教育・ジェンダー・共生 ——
誰ひとり取り残さない共生社会を創るために」

日本国籍を持たない、あるいは日本を母国としないで日本に住む、いわゆる「外国人」の人々や、その子どもたち（いわゆる「外国につながる子どもたち」）との「共生」について考えます

日 時：10月27日（土）13時30分～17時
会 場：日本女子大学桜楓2号館4F（東京都文京区目白台）
内 容：基調講演とシンポジウム、意見交換、まとめ
詳細（申込方法・参加費・懇親会など）は別紙ご参照のこと

国内奨学生による発表のお知らせ

1. 社会福祉委員会・東京支部共催公開講演会
演 題：「黄春明が描いた台湾社会と女性たちの研究」
～皆様のご支援をいただき～
講 師：木下佳奈さん 2017年度ホームズ・社会福祉奨学生
東京外国語大学大学院博士後期課程言語文化専攻
日 時：9月18日（火）13：30～15：30
会 場：津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス会議室
参加費：500円（定員40名）
申込み：本部事務所まで

2. 神奈川支部「奨学生のお話を聴く会」
2017年度国内奨学生の得居千照さん（筑波大院）から、ご専門の哲学研究についてお話を伺い、その後、お茶と歓談のひとときを。
日 時：9月2日（日）13：00～15：00
場 所：ユニコムプラザさがみはら ミーティングルーム4
（小田急線相模大野駅より徒歩3分）
参加費：400円（定員30名）
参加ご希望の方は神奈川支部までご連絡ください
(jauwkanagawashibu@yahoo.co.jp)

観劇へのお誘い 収益事業委員会

〔文楽〕 明治150年記念 [於：国立小劇場]
日 時 9月24日（月）昼の部 11：00 開演
・演目 良弁杉由来 ・チケット代 7,000円
・定員20名（定員に達し次第締切り）
〔奉祝の雅楽〕 [於：サントリーホール]
日 時 2019年2月2日 13：30 開場 14：00 開演
・チケット代 S席 6,000円 ・定員20名
・申込み締切 2018年10月15日

☆観劇・岩波ホール映画のお申込みは JAUW 事務所まで
☆静岡総会では、持ち寄りバザーも大盛況でした。
寄贈品をお持ちくださった方、お買い物をしてくださった方、ご協力をありがとうございました。

新入会員 理事会承認 2018年3月～6月

札幌支部 庭山 聡美 東京支部 板垣 絵里 東京支部 柳澤 実穂
愛知支部 安井 朱美 愛知支部 柳生 聖子 神戸支部 東條喜代子
奈良支部 中道 貞子 岡山支部 矢吹 眞弓 大分支部 安藤 道子
福岡支部 久保田千景 福岡支部 井上 宏子 福岡支部 小野 明子
熊本支部 友川 弓子

2018年度国内奨学生募集のご案内

一般社団法人 大学女性協会 2018年度国内奨学生募集要項

- I 応募資格
- 一般奨学生 文部科学省の認可する大学の大学院に在籍1年以上の女子学生で、学業人物ともに優れた者。
 - 社会福祉奨学生 文部科学省の認可する大学の学部・大学院に在籍1年以上の女子学生で、身体に障害があり、かつ学業人物ともに優れた者。
 - 安井医学奨学生 文部科学省の認可する大学の大学院に在籍1年以上の女子学生で、医学・歯学・薬学を専攻し、かつ学業人物ともに優れた者。
- *備考
- ・経済的理由は、一切問わない。
 - ・1大学から各部門1名ずつ応募することができる。
 - ・過去に当協会の奨学金を授与された者は、再度応募することはできない。
 - ・在籍年数に休学期間は含まない。
 - ・翌年2月末日に、現在の大学に在籍であること。
 - ・社会福祉奨学生は、身体障害者手帳の交付を受けていること。
- II 支給額および募集人数
- 一般奨学生 大学院生20万円 6名
 - 社会福祉奨学生 学部生10万円 大学院生20万円 学部生、大学院生合わせて3名以内
 - 安井医学奨学生 大学院生30万円 1名
- *備考
- ・応募状況により奨学生人数を変更することがある。
 - ・奨学金は1回限りである。
- III 提出書（下記(1),(2),(3),(4),(6)はホームページからダウンロードして使用のこと）
- (1) 履歴書・自己紹介書（写真貼付）
 - (2) 一般社団法人大学女性協会国内奨学生推薦書
・記入者は在籍する大学の学長・学部長・学科長・指導教員のいずれかであること。
・学長氏名・印又は奨学金担当者職名・氏名・印が必要。
 - (3) 研究・勉学の内容について
・大学院生は様式 A
・学部生は様式 B
 - (4) 研究業績リストおよび社会的活動
・大学院生のみ
 - (5) 学業成績証明書
・在籍する（直近に在籍した）大学院（学部生は大学）のもの。
 - (6) 身体障害状況報告書と身体障害者手帳の写し
・社会福祉奨学生のみ
- IV 応募方法および締切り
- 応募者は、応募書類を在籍大学へ提出する。
大学は一括して2018年8月31日（金）（必着）までに、支部が設置されている都道府県の大学は当該支部に、支部が設置されていない県の大学は本協会本部に、応募書類を提出すること。
- V 結果通知
- 選考結果は、本人・大学学長・推薦支部長に2018年11月末日までに通知する。
- VI その他の留意事項
- (1) 一般奨学金、社会福祉奨学金、安井医学奨学金を授与された者は2020年3月31日までに本協会会長宛に「研究成果報告書」を提出すること。提出のない場合は奨学金の返還を求められることがある。
 - (2) 国内奨学金贈呈式は2019年1月に東京において開催の予定。（詳細は後日通知する）
 - (3) 不明の点は当協会又は当該支部に照会のこと。
本部 e-mail kokunaifellowship@jauw.org（国内奨学担当）

理事会から



▶ 新事務員紹介 5月より中島鏡子さん（写真左）が月火水と勤務しています。退職された寺尾さん（同右）、ありがとうございました。
*水木金はいままで通り外谷さんです。

- ▶ 「候補者男女均等法」成立（5/16）女性を議会へ！！！！
- ▶ 事務所の夏季休業期間 8月11日（土）～8月19日（日）

一般社団法人 大学女性協会

〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6-101
電 話 03-3358-2882 F A X 03-3358-2889
http://www.jauw.org E-mail:jauw@jauw.org
発行人 鷲見 八重子 編集責任者 穂田 信子
発行日 2018年7月23日